

## 赤石山道迷い(2008年12月)

雪道で道迷い。尾根に登り返すのではなく、沢を下る判断をする。川で滑り、濡れながらなんとか林道に出ることができた。



## 解説

元のルートに戻れというのが鉄則ですが、雪道であり、よくわからない。もうすっかりパニック状態になって、たまたま遭遇した沢を発見。沢を降りていけば、県道に戻れると思い、沢を下る。滑りやすい岩で何回も滑って、尻や脛を強打。一番強烈だったのは、7~8m程度の急斜面の岩下り。下手すると、滝つぼに落ちるところでした。

何度も川に滑って、膝下までずぶ濡れ。でも感覚が麻痺しているのか、寒いとは感じませんでした。そういったヘビーな沢下りを下ること2時間。沢下りで800mも下った計算に。ほどなく、車道に戻れる。でも僕がスタートした東平(とおなる)は山の北側。僕が降りたのは南側なので、出発地の東平まで10km以上・・・(HP参照)

2008年の事例なので地図アプリは持っていないと思われる。雪があり、単独行となれば、地図とコンパスで方向や地形を確認しながら慎重に進むのだが、そうではなかった。登山道は尾根道にあるので、沢を下る判断は理解に苦しむ。しかし、これが、道迷いの心理である。「下りさえすれば、県道に出るに違いない」という思いは、「願望」であって、「理論」ではない。「根拠なく進む」これこそが道迷い遭難につながる行動なのだ。